

学校関係者評価 報告書

対象期間:2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

学校法人:早稲田大学

早稲田大学芸術学校

目 次

1. 評価実施の概要	3
2. 評価結果	4
1. 学校の教育理念(AA Idea)	4
2. 学校評価の基本方針	4
3. 学校の重点目標	4
4. 評価項目	
(1) 教育理念・目的・人材育成像	5
(2) 学校運営	7
(3) 教育活動	
① 目標の設定等	9
② 教育方法・評価等	10
③ 資格試験	12
④ 教職員	13
(4) 学修成果	14
(5) 学生支援	15
(6) 教育環境	17
(7) 学生の受入れ募集	18
(8) 法令等の遵守	19
(9) 社会貢献・地域貢献	20
(10) コロナ禍への対応	21
5. 総 評	22

2020 年度 早稲田大学芸術学校 学校関係者評価報告書

1. 評価実施の概要

評価目的：「早稲田大学芸術学校 2020 年度 自己評価報告書」を対象とした学校関係者評価委員による外部評価

評価実施者：学校関係者評価委員会

実施日時：2021 年 5 月 28 日～6 月 10 日

※新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、メールを用いた持ち回り審議により実施

学校関係者評価委員：

種別	所属	役職名	氏名	備考
学識経験者	早稲田大学 人間科学学術院	教授	加藤 麻樹	本委員会委員長
関係業界	建築家、 神奈川大学工学研究所	客員教授	石田 敏明	本委員会副委員長
専修学校団体・ 関係団体	稲芽会、 株式会社竹中工務店 東京本店プロダクト部	副理事長	田中 茂	

(敬称略)

評価の方法

本校自己評価委員会において承認された「2020 年度 自己評価報告書」を各委員に送付し、評価項目ごとに 1 (不適切) 2 (やや不適切) 3 (ほぼ適切) 4 (適切) の評価判定を受けた。各委員の評価の平均値 (小数点以下第 2 位を四捨五入) を最終評価とし、また記述意見についても取りまとめた。

なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、評価はメールを用いた持ち回り審議により実施した。(2021 年 5 月 28 日～6 月 10 日)

2. 評価結果

1. 学校の教育理念(AA Idea)

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・職能を明確にした一貫した理念が語られている。

2. 学校評価の基本方針

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・評価、改善等のホームページを通じての公開は評価できる。

3. 学校の重点目標

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

- ・新カリキュラムの完成を経て、さらに改善が進められることを期待する。
- ・広報、学生募集活動などを通じ、芸術学校の社会的認知度向上に関するより一層の取り組みを期待する。

4. 評価項目

(1) 教育理念・目的・人材育成像

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4.0
学校における職業教育の特色は何か	4.0
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4.0
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか	3.0
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「学校の理念・目的・育成像は定められているか」

・アセンブルデザイン特論は学校の理念をよく表している。

●「学校における職業教育の特色は何か」

・建築家教育を主眼とし横断的な教育カリキュラムを用意することで、結果的に建築家以外を目指す学生にも有意義な内容になっている。

●「社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」

・適切に実施できている。

●「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか」

・関係業界に限らず、裾野を広げての周知が求められる。

・教育内容の評価と成果を、さらに社会へ周知する必要がある。

・メディア戦略を検討し、小回りの利いた情報提供の実現を期待する。

●「各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」

・デザインに関する幅広いカリキュラム構成により対応できている。

(2) 学校運営

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.9

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.0
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4.0
人事、給与に関する規程等は整備されているか	4.0
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4.0
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3.4
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.7
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「人事、給与に関する規程等は整備されているか」
 - ・適切に実施できている。

- 「教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」
 - ・認知度向上の意味も含め、地域活動への参加を期待する。
 - ・早稲田大学全体の活動と芸術学校の活動をうまく関連付け、地域社会との関係を構築することを期待する。
- 「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」
 - ・学生募集と同様にSNS等を活用することを期待する。
- 「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」
 - ・適切に実施できている。

(3) 教育活動

①目標の設定等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4.0
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」

・適切に実施できている。

●「教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか」

・学校の目指す理念と専門学校という位置付けのバランスをうまく実現し、適切に実施できている。

②教育方法・評価等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4.0
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」

- ・適切に実施できている。
- 「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」
 - ・適切に実施できている。

③資格試験

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4.0

■委員からの評価・意見

- ・資格試験のシステムが変わったことにより、指導体制や情報提供方法のさらなる改善を期待する

④教職員

■評価結果：適切である。

■この項目全体の４段階評価 委員平均ポイント ： 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4.0
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4.0
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4.0
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「職員の能力開発のための研修等が行われているか」
 - ・適切に実施できている。

(4) 学修効果

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.1

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
就職率の向上が図られているか	3.0
資格取得率の向上が図られているか	3.0
退学率の低減が図られているか	3.4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.0

■委員からの評価・意見

●「就職率の向上が図られているか」

- ・創造理工学研究科、人間科学研究科など、関係性の高い大学院への進学機会拡大も期待する。
- ・就職支援に必要な卒業生の就職先情報把握に関しては、引き続き改善を期待する。
- ・就職率だけでなく、学生の希望に沿った就職先情報の提供ができるよう期待する。

●「資格取得率の向上が図られているか」

- ・芸術学校の場合は資格取得に拘らない学生も多いので留意が必要。
- ・建築業界で働く上で、資格取得をどのように考えるべきかの指導があってもよい。

●「退学率の低減が図られているか」

- ・夜間学校のため様々な事情を持つ学生がおり、特に仕事と学業の両立の難しさは理解できる。学生個々に寄り添った指導、対応を実施できており、今後も継続して欲しい。

●「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

- ・卒業後の追跡は長期的な教育効果のモニタリングや広報に重要なので、継続的な改善の取り組みを期待する。
- ・稲門建築会、稲芽会などの校友組織とも連携し、情報共有できる体制づくりが必要と思われる。

(5) 学生支援

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.7
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
卒業生への支援体制はあるか	3.7
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.0
大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4.0
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	2.7

■委員からの評価・意見

●「進路・就職に関する支援体制は整備されているか」

- ・建築科教育を主眼としていることから学生の自主的な行動を期待しつつ、それをサポートする体制ができています。

●「学生相談に関する体制は整備されているか」

- ・適切に実施できている。

●「学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」

- ・学内の奨学制度に特化した冊子はあるが、奨学制度がある学外の財団等の情報も提供できればより望ましい。

- 「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」
 - ・適切に実施できている。
- 「卒業生への支援体制はあるか」
 - ・支援体制はあるものの校友会活動に参加する卒業生が減少してきており、今後何らかの工夫が必要と思われる。
- 「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか」
 - ・関連業界の企業や卒業生が、どのような再教育プログラムの提供を望むかの状況把握に注力することを期待する。
 - ・学校と同窓会組織が協力して関わられるような再教育プログラムを提供できると良いのではないかな。

(6) 教育環境

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4.0
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	3.3
防災に対する体制は整備されているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」
 - ・適切に実施できている。
- 「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか」
 - ・アフターコロナの時代を見据えた計画を丁寧に立てることを期待する。
 - ・芸術学校の性格上、学外・海外研修に一定の制限があるのは仕方ない面がある。
- 「防災に対する体制は整備されているか」
 - ・適切に実施できている。

(7) 学生の受入れ募集

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.6

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	3.0
学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.3
学生納付金は妥当なものとなっているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか」

- ・高等学校から直接入学した卒業生が活躍しているケースもあり、引き続き多方面から学生が集まるよう努力を続けて欲しい。

●「学生募集活動は、適正に行われているか」

- ・適切に実施できている。

●「学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか」

- ・資格試験のシステムが変わったことにより、指導体制や情報提供方法のさらなる改善を期待する。
- ・建築業界で働く上で、資格取得をどのように考えるべきかの指導があってもよい。
- ・情報を正確に伝えるためにも、卒業生の情報収集が必要と思われる。

●「学生納付金は妥当なものとなっているか」

- ・適切に実施できている。

(8) 法令等の遵守

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0
自己評価結果を公開しているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」

・適切に実施できている。

●「個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」

・適切に実施できている。

●「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」

・適切に実施できている。

●「自己評価結果を公開しているか」

・適切に実施できている。

(9) 社会貢献・地域貢献

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.3

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.3

■委員からの評価・意見

●「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」

- ・コロナ禍のため各種イベントは非対面での活動となったが、社会貢献、地域貢献として評価できる。
- ・貢献内容のより強力なアナウンス、広報の実現を期待する。

●「地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか」

- ・「建築講演会」など一般に公開できる講座を開催している。専門的な講演会については、地域への公開にある程度限界があるのはやむを得ない。

(10) コロナ禍への対応

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
感染予防対策を適切なタイミングで策定したか	4.0
学生の学修効果および健康に配慮した授業運営を実施したか	4.0
教職員の健康に配慮した学校運営を実施したか	4.0

■委員からの評価・意見

●「感染予防対策を適切なタイミングで策定したか」

- ・大学全体と連携し、コロナ禍の状況に適切に対応できていた。

●「学生の学修効果および健康に配慮した授業運営を実施したか」

- ・適切に実施できている。

●「教職員の健康に配慮した学校運営を実施したか」

- ・合理的範囲で配慮できていた。特に演習、実習関連授業に対する配慮に敬意を表する。

◆ 総 評

- ・2020年度～2021年度はコロナ禍のなか難しい対応を迫られたと思うが、オンライン授業の仕組みは、夜間主体の芸術学校にうまく取り入れれば学生にとってメリットがあると感じる。
- ・今後も幅広い学生層を受け入れていくことを想定し、実験的なこともぜひ取り入れて、他にない先進的な学校として発展していくことを期待する。